

のり・釘不用でカンタン施工!!

スピード施工 コルクフローリング

取扱 / 施工説明書

F☆☆☆☆ 大臣認定番号 MFN-1382

仕様

基材	HDF(高密度繊維板)
表面	コルク
裏面	コルクバックিং
サイズ	300×910×10.5mm 4枚/m ²

施工下地

- ・木質フローリング ・ Pタイル
- ・コンパネ ・ コンクリート*
- ・クッションフロア ・ OAフロア

※ 別途防湿シートを敷き、防湿処理をしてください。

⚠️ ご注意

- 本製品は浮床(ウキユカ)専用のため、根太貼り工法はできません。
- 取扱い時は、フローリングの角、サネ部分の破損に特に注意してください。
- フローリングを、接着剤や釘などで床下地に固定しないでください。
- 清掃時に水や洗剤を流さないでください。(サネからの侵入で膨れの原因になります)
- 壁、柱、敷居等あらゆる障害物とフローリングはコルク材の伸縮を ●台所、洗面室等水廻りの床にはご使用できません。
- 見えて、必ず5~6mmの隙間をあけてください。
- フローリング面への漏水等は、すばやくふき取ってください。

■使用上の注意事項

- 床暖房用仕上げ材としては使用しないでください。
- 電気カーペットを直接敷いたり、温風ヒーターなどの熱気が長い時間直接あたると、表面にクラック、目隙が生じることがあります。
- 室内の温度が極端に高くなる時や乾燥する時は除湿、加湿により室内の湿度を調節してください。(湿度50~70%程度を目安としてください)

■施工上のご注意

- 畳やカーペットなどの柔らかい材料の上には、直接施工しないでください。
- コンクリート・モルタル下地の場合、必ず防湿シートを敷いてから、フローリングを施工してください。不陸調整が必要な場合は、発泡ポリエチレンシート(目地つきつけて施工)をご使用ください。
- フローリングの伸びを逃げる為、壁際にはくさび等を使用して、5~6mmの隙間をあけてください。

■メンテナンスについて

- 専用ワックス(ウレタン仕上 U-800)をご使用ください。ワックスを床にこぼして塗布するのは避けてください。
- 掃除機又は乾いた布で拭くだけで十分です。
- 汚れは、堅く絞った濡れ雑巾で拭き取ってください。
- 木製の為、水拭きはさけてください。

施工前の準備

1 工具類を揃えましょう。

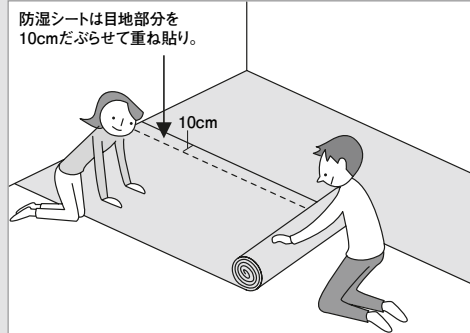
コルクフローリング(以下パネル)の施工にあたっては、次の工具類が必要です。

- のこぎり
- ハンマー(ゴムハンマーが便利です)
- あて木
- 専用引付金具
- 幅木(厚み9mm以上)
- くさび

2 施工する部分(下地)は十分乾燥させておきましょう。

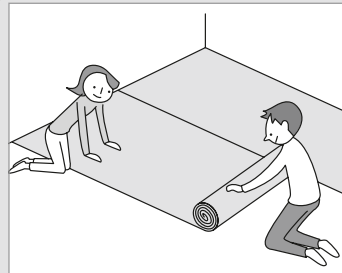
基材のHDFは湿度が高いと膨張することがありますので、パネルを施工する部分(合板下地等)は十分に乾燥させてください。

※コンクリート・モルタル下地の場合は必ず専用の防湿シート(TWS)を敷いてください。防湿シートは目地部分を10cmだぶらせて粘着テープで重ね貼りしてください。



3 下地の不陸(凹凸)をなくしておきましょう。

下地は米粒大のゴミまで完全にに取り除きます。下地の不陸が目立つ場合は、クッションシートを敷いてください。

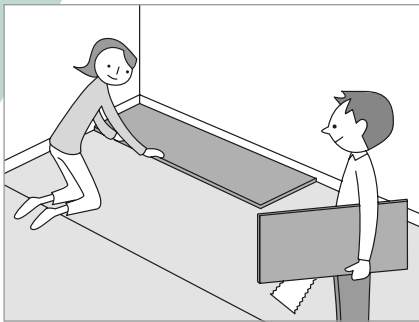


クッションシートの敷設
下地の不陸を確かめて汚れを取り除き、専用のクッションシート(TPS)を継ぎ目を重ねずに敷き詰めます。クッションシートは、必要に応じて下地に粘着テープ等で固定してください。

カーペット下地の場合

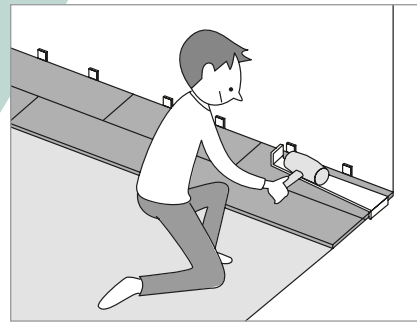
毛足(パイル)長さが5mm以上、カットパイル、厚手のアンダーカーペットがある場合は必ず、仮敷きして歩行感を確認してください。歩行時にフカフカして不快に感じたり、ずれて目地が出やすい場合は必ずカーペットをはがしてから施工してください。

1 コルクフローリング (以下パネルと称す)の敷き始め



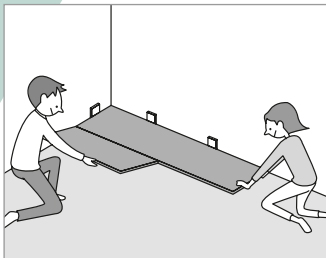
パネルを敷いていきます。敷き始めはパネルのメスザネが手前になるようにし、壁側のオスザネ部をカット。また、その手前に敷くパネルは、レンガ貼りのようにズラしますので、半分にカットして準備します。

4 右壁面との敷き納め



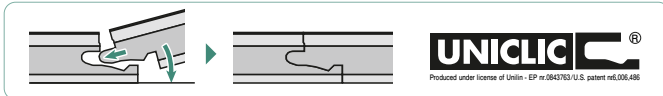
パネルの伸びを吸収するため、右壁面とパネルの間で隙間をあげるようにカットします。右壁面の敷き納めとなる短辺部のはめ込みは、施工ツールの引付金具を使うと簡単にできます。

2 パネルの敷き方

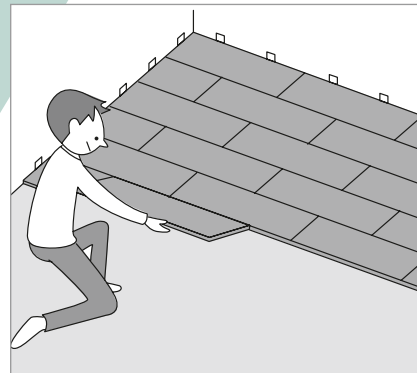


最初に敷いたパネルのメスザネ部に、手前に敷くパネルのオスザネ部をはめ込みます。

- 1.手前側のパネルを斜めに30度ほど傾けてサネ部をキッチリと入れ、
- 2.水平に戻してはめ込むようにします。また、正面壁面と左壁面との間にはくさびを入れて隙間をあけます。



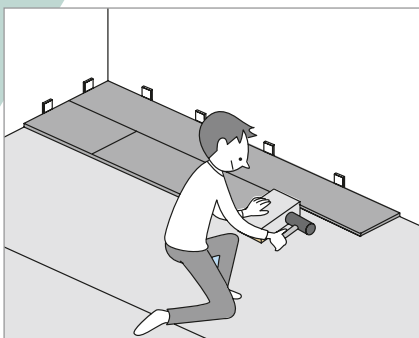
5 敷き順序 (3列目以降)



正面壁面側パネルのメスザネに手前側パネルのオスザネをはめ込みます。パネルの伸びを吸収するため、壁面とパネルの間で隙間をあけてくさびを入れます。壁、柱、敷居などとパネルは必ず5~6mm隙間をあけます。

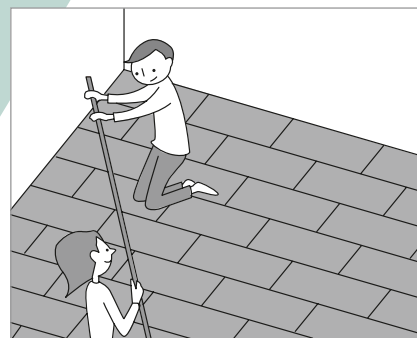
※壁ミキリを使用の場合は壁とパネルの隙間は、23~24mmあけてください。

3 敷き順序 (正面壁面側2列)



左壁面から正面壁面にそって2列敷きます。接合部の直線を保つため、敷き順序は厳守してください。長辺部のはめ込みを終えたら、専用の当て木をあてがい、ハンマーで叩いて短辺部もはめ込みます。

6 残った壁との敷き納め



残った壁との敷き納めもパネルとの間で隙間をあけるようにし、パネルをそれぞれカットし敷き終えます。パネルを敷き終えたらくさびを外し、9mm厚以上の幅木を取り付けます。

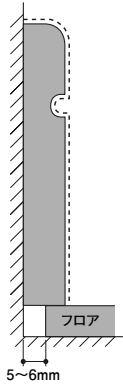
- ドア枠との納まりは、ドア枠下部をコルクフローリングの厚み分だけカットして、コルクフローリングをはめこんでください。

納め部材の納まりについて

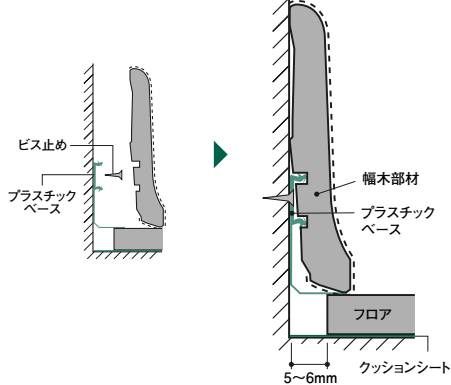
専用ミキリ部材を使用する時は、ミキリ内部に5~6mmの隙間を作るようにフロアをカットしてください。

ミキリ部材は、プラスチック製ベースを床下地にビス止めで設置し、フロア施工後に上からかぶせるようにはめ込んでください。

コルク柄合成幅木 (H-60)

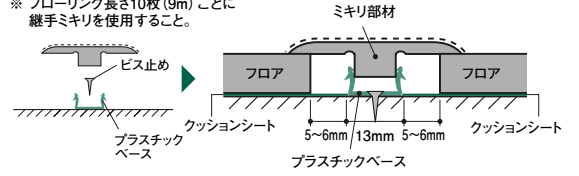


コルク柄合成幅木 (SH-2400)

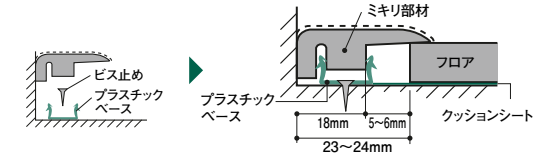


コルク柄合成継手ミキリ (SJ-02)

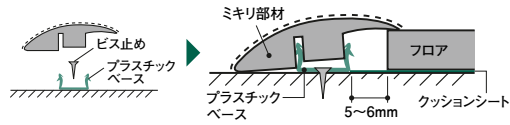
※ フローリング長さ10枚 (9m) ごとに継手ミキリを使用すること。



コルク柄合成壁ミキリ (SW-03)



コルク柄合成段差ミキリ (SM-01)



コルク柄合成框 (SK-04)

